緩和ケア部会

がんにより死亡する人の減少 すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の がんの年齢調整死亡率(75歳未満、人口10万人当たり)を平成 質の維持向上 29年度までに20%減少させる。 全体目標 【目標】 あるべき姿 質の高い緩和ケア医療の提供 中期目標 除痛率の指標を作る 最終目標 除痛率調査方法のベースラインが出来ている 部会が担当す る分野の課題 指標 除痛率60% 測定方法 指標 除痛率90% 測定方法 と目標 【アウトカム目標2】 5 26年3月までに 【アウトカム目標 1】 平成26年3月までに、すべて ●月● 【アウトカム目標3】 【アウトカム目標 4】 【アウトカム目標5】 満足60% の患者が緩和ケアを正しく理解し、治療に参加 日まで 30年3月末まで 30年までに緩和ケア医療ができる医師以外 26年3月までに看 (2)30年3月末ま に評価 できる必要な機会にアクセスできる環境を整え に基本的な緩和 の医療者が2倍増え、25施設の緩和ケア 取りを行う施設が2 でに90% アン チームの依頼が5倍に増える 倍に増える ケア医療ができ ケートを る医師が630名増 施策毎 実施す 加し、一般的な緩 のアウト 和ケア医療がで 26年3月 (1)26年 カム目標 26年 までに一 きる医師が210人 3月まで 26年 3月ま 年分の 26年3月 年 増加する 平成25年 に拠点・ 3月ま 1年 データ解 でに までに に 者2年 度は支援 支援病 析をおこ でに 拠点• 156 年1 拠点•支 28年3 1 T°500 病院,参加 ない患者 院で主 宮古 支援 回開 回の 援病院 月迄 希望施設、 名(二 継続して各コメディカルの人数を さんとの 治医か 病院と 又は の依頼 拠点病院 ニーズの 改 に本 交流 次医 把握していく。 らの配 石垣 協議 で調査を開 ス 訂 ギャップ 数が 運用 会を 療圏 180 布率が で1回 始する。 施策毎 会の を明らか (1)26年 30%增 を を行う。 ごとに、 持つ。 (1)26年 名修 開催 50% HPで える 3月まで 行 のアウト 年に1 3月まで (2)30年 情報 に修了 ツ う に修了者 3月末ま プット を発 者30名 180名增 でに配 平成24年 信す 県内の緩 日標 増加 加 布率 度末までに る 和ケア (2)304 (2) 30年 100% 調査方法 チーム活 (4)25年 年3月 患者会 の構築計済 3月末ま (9-3)(7-2)動報告会 を後援 4月から 末まで (7-1) (7-3)(9-1) でに630 (9-2)在 症状緩 緩和 (1-3)HP 緩和ケア を作る。 (1-1) に180名 看取り 同ス する、又 がんり 名増加 宅療養 和を目 情報シー 薬物 の緩和 増加 緩和 を施 キル は、講 ハ理学 和ケア (10)支援診 トの分析 的とした 療法 ケア情 ケア 演会の 療法 ナー 設で 講演会 をおこなう 行政 療所等 緩和ケ 報を充 薬剤 施策 パンフ 開催 行う為 スの 士の を定期 のリスト ア関連 との交 師の 実させ の勉 レット 人数 人数 アクショ 【施策3】 (施策8) 及び在 の地域 流会を 【施策6】 人数 作成 把握 強会 【施策5】 把握 宅緩和 除痛率 フォロー 緩和ケ 連携クリ 行う。 ンプラン 【施策2】 把握 を開 緩和ケ の確立 アップ研 アチー ケアマッ ティカル 患者会 催す ア研修 【施策1】一般・患者、家族へ をはか 【施策4】 ム依頼 プ作成 パス作 修会及び への協 会の実 る済 緩和ケア 在宅緩和 【施策7】コメディカルの増員 調査 成·運用 の情報提供を行う 力 施 現状調査 ケア研修 ワーク シート1で 【対策 【対策項目2】 【対策項目1】 【対策項目3】 【対策項目4】 項目5】 より多くの医療関係者への適切な情報提供と教 導き出き 患者さんへの正しい情報提供 病病:病診連携の強化 行政との チーム医療体制の強化 れた対策

項目